

特集

# 農業と観光の連携で 人々を魅了する

## 6次産業化

観光客を農業でもてなす。

観光農園や農家レストランなどにより、  
農業の魅力と観光需要を結び付けた

6次産業化に、今回はスポットを当ててみた。

6次産業化を進めていく中、事業者たちが直面する課題としてあげられるのが販路の確保。今回の特集は、販路開拓のひとつの方法として「農業と観光」が連携した事例を紹介する。「株式会社粟」は、奈良市の山間地で農家レストランを経営。稼働率95%の人気レストランの売上は、事業者と地元農家の人々の暮らしを支え、姉妹店もオープン。一方、千葉県の「道の駅とみうら枇杷倶楽部」は、日帰り観光バスを誘致して地元農家の観光農園や飲食店、産業施設を案内するというランドオペレーターの役割を果たし、年間20万人まで落ち込んだ南房総への観光客を100万人まで引き上げた。規模の大きさも形態もまったく異なるが、共通しているのは、「お客様との距離を作らない」という接客コンセプト。近年、旅行者のニーズも多様化し、人との交流、自然との触れ合いなど、精神的な豊かさを求める傾向にある。もしかしたら身近な1次産業の魅力を活かすことに、6次産業化の販路開拓の突破口があるかもしれない。

